



1、古墳時代から飛鳥時代へ

前号では、古墳時代の信仰について執筆させていただきました。本号では、飛鳥時代に焦点を当てて、信仰の歴史を紐解いていきたいと思えます。

飛鳥時代でも古墳は造られますが、規模や数が減少していきます。それに伴い、飛鳥時代の信仰にも変化がみられます。また、国の名前が『倭』から『日本』になったのもこの頃です。推古天皇(すいこてんのう)が即位すると摂政(せつしょう)に聖徳太子(しょうとくたいし)が任ぜられます。聖徳太子は、冠位十二階(かんいじゅうにがい)や憲法十七条(けんぽうじゅうななじょう)などを制定して、当時の日本の政治を改革した人物です。

2、日本初の海外信仰

聖徳太子の祖父にあたる欽明天皇(きんめいてんのう)の時代に、百濟(くだら)から仏教が伝来してきます。欽明天皇は、仏教を今後普及させていくか家臣を集めて会議をします。その際、賛成派の蘇我氏(そ

がし)と反対派の物部氏(ものべし)が対立し、結果反対派の物部氏の意見が取り入れられ、仏像やお寺が壊される事態が発生しました。その後、蘇我氏が物部氏を滅ぼし権力の座につくと、仏教を広める活動が活発になっていきます。さらに聖徳太子も積極的に仏教の教えを取り入れていきます。

3、飛鳥時代の神道

飛鳥時代は仏教が伝来する時代になりますが、その頃の神道はどうなっていたでしょうか。

推古天皇は、政治を聖徳太子や蘇我氏に一任にし、もっぱら宮廷の祭祀を行うシャーマン的な役割を担っていたそうです。また、天皇の祭祀には、古墳時代の前方後円墳で行われた祭祀行為が参考になっているとも言われています。

4、飛鳥時代の大崎町

横瀬古墳築造以降、忽然と大崎町の歴史の記録が無くなります。唯一確認できるのは、『日本書記』天武天皇の条に、大隅直(おのおすみのあた)が忌寸の姓(いみきのかばね)「八色の姓の第四位」を賜ったという一文です。(大崎町史より)

とはいえ、あれだけの巨大な古墳を造った人々の子孫が、どのような生活の営みをしていたのか想像を掻き立てられます。

592年	推古天皇が即位 ※日本初の女性天皇
593年	聖徳太子が摂政になる
604年	聖徳太子が冠位十二階を制定
604年	聖徳太子が憲法十七条を制定 ※日本初の法律
607年	法隆寺が建てられる ※世界最古の木造建築
621年	聖徳太子が死去する
645年	中大兄皇子と中臣鎌足が蘇我入鹿・蝦夷親子を殺害(大化の改新)
663年	朝鮮半島で唐と倭・百濟連合との間で戦いが起るが、連合が敗戦する(白村江の戦い)
670年	日本初の戸籍を作成する(庚午年籍)
671年	天智天皇(中大兄皇子)が死去する
672年	天智天皇の子大友皇子と弟大海人皇子の間で皇位継承争いが起り、大海人皇子が勝利し天武天皇となる。
708年	日本初の通貨『和同開珎』が発行される

飛鳥時代の年表